

ダンノ恵美

活動レポート

新春号

2014年
1月発刊

謹 賀 新 年



明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、みなさまにはご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、ダンノ恵美に多大なご協力ならびにご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。ダンノは子育て中の母親の視点から、そして生活者としてのナマの声を議会に届けてまいりましたが、市民の皆さまからいただいたお声やお手紙などを拝見するにつけ、さまざまなことを気づかせていただけた、充実した一年となりました。

やらなければならないこと、疑問点を明確にして改善への道筋をつけなければならないことなど、抱えている事柄は山積していますが、ダンノは本年も立ち止まることなく、エネルギーに前進してまいり所存でございます。どうか変わらぬご支援、並びにご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

昭和18年(1943年)1月1日に高槻市としての産声を上げて70年、そして中核市10周年という記念すべき節目の年が過ぎ、先達の方たちのご苦勞と功績を改めて噛みしめております。新たな歴史のページを刻むにあたり、華やかさやきらびやかなものを追い求めるより、一步一步確実に次代に恥じないものを残し築いていくことが、先輩たちからバトンを受け取った私たちの使命だと思っています。

振り返って、70年前に先人達が描いた理想的なビジョンに、高槻市は近づいているのでしょうか。市が誕生して10年目の昭和28年(1953年)の人口は5万人超。昭和38年(1963年)は10万人超でした。そして昭和40年代後半からは大阪と京都のベッドタウンとなり、私が生まれました昭和44年(1969年)には20万人を超えましたが、そのわずか4年後の昭和48年(1973年)には30万人を超して現在に至っています。

人口の推移だけを見ましても、これほどまでに増え続けているということは、それだけ『住みやすい街』『魅力的な街』になっているバロメーターだと言ってもいいかもしれません。

道路交通網の充実や施設の拡充などのさまざまなインフラ整備は、もしかしたら理想とされていた以上の成果をあげ、おそらく70年前には想像もできなかったくらい、私たちの周りは便利に、そして高度なものになっていると言っても過言ではないかと思えます。

しかしながら、そういったハード面が整備される一方で、おそらく70年前には予測もされていなかった核家族が今やスタンダードとなり、子どもたちを取り巻く環境や高齢者への福祉政策、地域住民同士の横のつながりといった、かつては当たり前だった住環境としてのソフト面とのバランス

は、果たして満点といえるでしょうか。

はからずも、昨年8月25日に予定されていた、全市域を対象とした市制施行70周年記念事業「高槻市全域大防災訓練」が、大雨洪水警報の発令によって中止されましたが、本年1月26日(日曜日)の午前10時から12時に、再度予定されています。

この高槻市全域大防災訓練は、市としては初めての取り組みであり、市民全員がそれぞれの立場で積極的に参加することに意義があると思っています。こういう機会にこそ、地域での横の連携を密にし、お年寄りや体が不自由な人など、介護が必要な方をどのように避難誘導するか、また、思わぬアクシデントに遭遇したときの危機管理など、咄嗟の判断が一命を取り留めるといふこともあります。そういう意味でも、今回は非常に有意義な機会になるのではないのでしょうか。

阪神・淡路大震災を体験している私たちですが、そのときにはまだ生まれていなかった人たちも、もうすでに成人しています。文字や画像で伝承していくことはもとより重要なことですが、実生活の中での訓練に勝るものはないはずで

共に助け合い協力し合うということを、言葉で表すのは簡単なことですが、実際に行動に移すとなると、その一歩を踏み出すときには戸惑いが生じてしまうものだと思います。今回予定されている訓練では、そういったことも事前に体験しておく格好の機会になるはずで

災害は私たちの都合を考慮してくれません。「まさか!」と思う時や所にも容赦なくやってきます。私たちの生活と安全を守るその第一は、私たち自身です。これを機に、自主防災と地域力の向上、そして共助力を高めていきましょう!



昭和40年代後半に急激に人口が増大し、その影響によって、現在では本市の人口ピラミッドは、20代から下の世代が極端に少なくなっています。そこには、まだまだ子育てに対する不安を持っておられる、若い世代の方たちの正直な意識が象徴的に物語られているのではないのでしょうか。

働きながら安心して子育てができる環境を整えていくためのまず第一歩が、保育施設の充実ですが、念願であった「待機児童ゼロ」に向けた取り組みが、ようやく本年に実を結ぶ計画です。これによって高槻市の保育行政は、ますます魅力のあるものになります！

ただ、就学前保育だけで子育てが終了するわけではありません。就学後のいわゆる「学童保育」は現在、市内40の小学校で59室の学童保育室が設置されています。そして4年生以上の児童への対応は「放課後子ども教室」となります。しかしながら、放課後子ども教室は現在、市内4校で実施されているだけで、まだまだ全市的な拡がりとはまだ言えないのが実情です。そこには、運営の大半が地域のボランティアの方たちに頼っているという現状を見逃すわけにはいきませんが、10年後、20年後、あるいは30年後の市制100周年を展望したとき、これから生まれてくる子どもたちが高槻市の主役となってけん引していくようになることは、動かせない事実だと思います。そのためにも、人口バランスは非常に重要な課題であり、出産から就学後までの福祉・教育行政いかにによって、これからの高槻市が見えてくるとも言えるのではないのでしょうか。



また、平成24年11月から如是中学校と芝谷中学校で試行されていた学校給食が、本年より全市立中学校で完全実施されるようになります。子どもたちの反応は、賛成反対の半々だったようですが、保護者の方たちは大半が歓迎されているというアンケート結果でした。食育という観点からも、栄養バランスを考えた給食は大いに期待したいと思っています。もちろんそこには、食物アレルギーや給食費など、考慮しなければならない課題もありますが、各家庭と連携して解決へ向けています。

これからの私たちがやらなければならないことは、子どもたちを取り巻く未来展望を具体的に見据えた施策であり、住んでよかった、ずっと住み続けたいくなる、魅力的な街づくりにほかにありません。

皆様のお声を、ダンノ恵美にお届けください。いっしょに考え、そして行動に移していきましょう。



！ダンノ恵美後援会 会員募集中

ダンノ恵美は日々全力で取り組んでいます。一人の力や行動範囲、そして思考力も限られています。共に行動してくださる方、知恵を出していただける方のお力があってこそ何倍ものパワーとなって、よりスムーズに目に見えるかたちで市政に反映できます。私たちの街を私たちの手で築き上げるために、力をお貸しください。

尚、ご入会については、下記にご連絡ください。ダンノがお伺いさせていただきます。一人でも多くの方の入会をお待ちしております。

